

平成 30 年度夏季特別展

奈良市 の 埴 輪

- 土師氏の故郷でのハニワ生産 -



開催にあたって

埴輪は、今から約1500年以上も前、古墳に立て並べるために作られました。これらは、土師氏という集団によって作られたことが『日本書紀』などに書かれており、その土師氏が、奈良市の菅原や秋篠にもいたことが『続日本紀』に記されています。このことを裏づけるように、奈良市菅原からは、埴輪を焼いていた埴輪窯が見つかるなど、貴重な発掘調査成果を得ています。

今回の展示では、奈良市が所蔵する埴輪を紹介するだけでなく、土師氏ゆかりの地でもある奈良市から出土した埴輪が私たちに何を語りかけているのか、作り方とその技法の痕跡を通して探っていきたいと思います。土師氏たちが刻んだ奈良市の歴史に思いをはせていただければ幸いです。

例言

■本書は平成30年8月1日～9月28日まで開催する、奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターの平成30年度夏季特別展「奈良市の埴輪-土師氏の故郷でのハニワ生産-」の展示パンフレットです。

■パンフレットは、奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター職員協力のもと、村瀬陸が編集しました。

■調査次数の前に付したアルファベットは遺跡名の略称を表したもので、正式な名称は以下の通りです。

AD：赤田横穴墓群、BSZ：ベンショ塚古墳、DA：史跡大安寺旧境内、GG：元興寺旧境内、HJ：平城京跡、KN：コナベ古墳、KZ：孤塚横穴墓、UK：上ノ口遺跡、UN：ウツナベ古墳

■本書で扱う市内の遺跡および資料所在地をまとめた図は巻末に掲載しています。

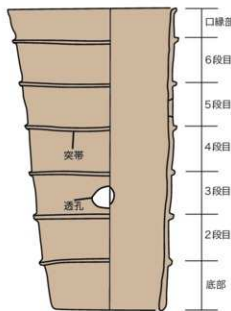
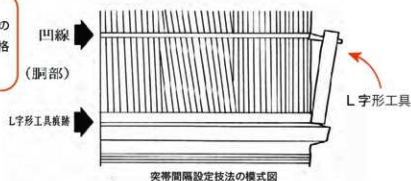
■展示の企画、展示品、掲載写真、本書の作成については、下記機関の協力を得ました。記して心より感謝申し上げます(敬称略・50音順)。
岡山大学考古学研究室 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 天理市教育委員会 奈良県立橿原考古学研究所
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

| 埴輪の 時期区分 | 特徴 | 焼成 | | 外面調整 | | 底部 調整 | 突帯間隔設定技法 | | 断続 ナデ | 透孔 | |
|-------------|---------------------------|-----|-----|------|------|----------|----------|----|----------|-----|---------|
| | | 有黒斑 | 無黒斑 | 1次 | 2次 | | 刺突 | 凹線 | | △□▽ | ○ |
| | | | | タテハケ | ヨコハケ | | | | | | |
| I期 | 古墳時代前半 3世紀後半 ～4世紀前半 | 有黒斑 | 無黒斑 | タテハケ | ヨコハケ | 調整 | 突帯 | 凹線 | ナデ | 透孔 | 3段に3つ以上 |
| II期 | 古墳時代前期 4世紀前半 ～4世紀後半 | 有黒斑 | 無黒斑 | タテハケ | ヨコハケ | 調整 | 突帯 | 凹線 | ナデ | 透孔 | 1段に2つ |
| III期 | 古墳時代中期 4世紀後半 ～5世紀前半 | 有黒斑 | 無黒斑 | タテハケ | ヨコハケ | 調整 | 突帯 | 凹線 | ナデ | 透孔 | 1段に2つ |
| IV期 | 古墳時代中期 5世紀前半 ～5世紀後半 | 有黒斑 | 無黒斑 | タテハケ | ヨコハケ | 調整 | 突帯 | 凹線 | ナデ | 透孔 | 1段に2つ |
| V期 | 古墳時代後期 5世紀後半 ～6世紀 | 有黒斑 | 無黒斑 | タテハケ | ヨコハケ | 調整 | 突帯 | 凹線 | ナデ | 透孔 | 1段に2つ |

埴輪の技法や特徴の変化と時期区分

製作技術その1
- 突帯間隔設定技法 -

右図のようなし字形工具を使って凹線や刺突などの目印をつけ、突帯の間隔が揃うように割付し、規格的な埴輪作りを行っていました。



円筒埴輪の部位名称



方形の刺突痕跡(左)と凹線(右)

製作技術その2 - 断続ナデ技法 -

古墳時代後期には、突帯の間隔を揃えることをやめて、粘土をナデつけるだけで突帯とする省略技法＝断続ナデ技法が登場します。



断続ナデ技法 A



断続ナデ技法 B

製作技術その3- 窯窯の導入 -

埴輪は当初、野焼きしていました。しかし、古墳時代中期になって、朝鮮半島から窯で土器を焼く技術が伝わりました。その影響を受けて、埴輪も窯で焼くようになります。そうすることで、全体を均質に硬く焼くことができ、焼きムラによって生じる黒斑がなくなります。



※右写真：左から東殿塚古墳出土（Ⅰ期）若草中学校旧蔵（Ⅱ期）コナベ古墳出土（Ⅲ期）杉山古墳出土（Ⅳ期）菅原東遺跡埴輪窯跡群出土（Ⅴ期）

製作技術その4- 底部調整 -

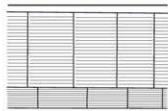
埴輪編年Ⅴ期（古墳時代後期）には、埴輪作りの省略化がさらに進みます。埴輪を作る粘土も柔らかいものを使うようになり、自重で底部がつぶれてしまうので、最後に倒立させて板状の工具で整え直します。



図：山内英樹 2003 『円筒埴輪製作工程における「底部調整」』
『埴輪 - 円筒埴輪製作技法の観察・認識・分析 -』 埋蔵文化財研究会から抜粋

製作技術その5 -B 種ヨココハケ-

埴輪編年Ⅲ～Ⅳ期（古墳時代中期）には円筒埴輪の外周ヨココハケ調整で意図的に静止痕跡を残す（B種ヨココハケ）ようになります。さらに調整の違い（Bb～Bd種）があり、概ねこの順に出現します。



Bb 種ヨココハケ



Bc 種ヨココハケ



Bd 種ヨココハケ

第1章 埴輪の誕生 -埴輪編年I期-

埴輪の誕生

埴輪は、弥生時代後期につくられた吉備地方（岡山県）の埴丘墓から出土する立板型特殊器台が型式変化して成立したと考えられています。それは、出現期の埴輪にみられる直弧文や巴形の透孔が、立板型から変化した宮山型特殊器台や特殊器台型埴輪（都月型）にもみられるからです。

奈良市では今のところI期の埴輪はみつかっていません。



特殊器台の変遷



1. 岡山県備前弥生埴丘墓で出土した特殊器台
(岡山大学埋蔵文化財調査研究センター提供)

東殿塚古墳（4世紀前半）

東殿塚古墳は、天理市登生町に所在する全長139mの前方後円墳です。天理市教育委員会の発掘調査で、埴丘斜面には葺石があり、埴頂部やテラス上に埴輪列が並ぶと想定されています。

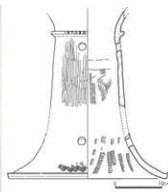
出土した円筒埴輪は、透孔が巴形など多様で、1段に3つ以上あけられているなど、埴輪編年I期の特徴をもちます。しかし、鱗付円筒埴輪や楕円筒埴輪といった新しい特徴をもつものも出土しており、I期のなかでも中頃にあたります。それでも、展示品のように直弧文を施すなど、特殊器台以来の伝統的要素も残っています。この他にも葬送の船が描かれた楕円筒埴輪が出土しています。



2. 天理市東殿塚古墳で出土した円筒埴輪

杉ヶ町遺跡

奈良市で特殊器台やI期の埴輪はみつかっていませんが、杉ヶ町遺跡出土の円筒形器台は円筒埴輪のように突帯が貼り付けられ、端面には竹管文が施されています。突帯下には直径約2cmの透孔が配置されています。埴輪に発展しなかった祭礼用の器台と考えられます。



3. 杉ヶ町遺跡で出土した円筒形器台（4世紀中頃～後半）と復元図（S=1/8）

第2章

奈良市域における埴輪生産の幕開け

—埴輪編年Ⅱ期—

佐紀古墳群と埴輪生産のはじまり

平城宮跡の北方には、全長200m前後の大型前方後円墳をはじめとする佐紀古墳群があります。しかし、多くの古墳は宮内庁が陵墓として管理しているため、判明している古墳の情報は限られています。それでも、宮内庁による調査、および古墳の外堤など陵墓区域外での調査で確認された資料から、佐紀古墳群は西群から造営が開始されたと考えられており、¹⁾ 陵山古墳や宝来山古墳からは埴輪編年Ⅱ期の埴輪がみつかっています。Ⅱ期の埴輪は、Ⅰ期の特徴を引き継ぎますが、突帯間隔設定技法に凹線を用いたり、透孔も1段に2つとなっていくます。また、形象埴輪もこの時期から本格的に作られはじめるようになります。

奈良市域では、佐紀古墳群の築造に連動して埴輪の生産が始まり、いよいよ本格的に古墳時代が幕開けします。



4. 佐紀古墳群（西から）

埴輪誕生説話と宝来山古墳

垂仁天皇に仕えた野見宿禰が、皇后である日葉酢媛命の葬儀の際に、殉死の風習にかわる埴輪を考案し、その功績を讃えて土師の姓を与えられたことが『日本書紀』に書かれています。

現在の垂仁天皇陵は宝来山古墳に治定されており、そのすぐ北側に菅原土師氏の集落と考えられる菅原東遺跡（前・後期）、さらに北方には日葉酢媛命陵（陵山古墳）が位置します。

菅原東遺跡埴輪窯跡群（後期）のすぐ南側で、II期の埴輪がまとまって出土していたことが近年の遺物調査で明らかとなりました。埴輪焼成遺構はみつかりませんが、古墳時代前期にもこの遺跡のなかで埴輪を焼いていたとすれば、まさに説話の舞台がここであると言えるでしょう。

菅原東遺跡（4世紀後半）



6. 菅原東遺跡で出土したII期の円筒・形象埴輪（蓋・不明）

平松北内古墳（4世紀後半）

平松北内古墳は、宝来山古墳（垂仁天皇陵）の西約100mに位置します。1994年度の試掘調査で周溝を検出し、埋土から家形埴輪と円筒埴輪（赭付円筒埴輪を含む）が出土しました。

家形埴輪は、屋根部と基部・壁体部片が出土しており、切妻式構造であることがわかります。

円筒埴輪は、突帯が比較的突出するものがあるほか、突帯剥離面に突帯間隔設定技法として凹線が用いられたものが確認できます。家形埴輪も含めて黒斑がみられます。

概ね埴輪編年II期の特徴をもっており、宝来山古墳に近接することから陪塚の可能性もあります。



7. 平松北内古墳で出土した円筒・形象埴輪（家）



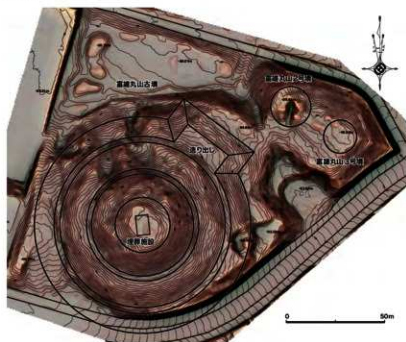
5. 宝来山古墳と菅原東遺跡（南西から）

日本最大級の円墳 とみ お ま る や ま 富雄丸山古墳とその埴輪

富雄丸山古墳は、これまで直径86mの円墳であるとされてきましたが、奈良市教育委員会による航空レーザ測量によって、直径約110mの造り出し付き円墳であることが明らかとなりました。従来日本最大とされてきた円墳は、埼玉県丸山古墳で直径105mでしたが、それを上回る可能性が高くなりました。

1972年に、奈良県立橿原考古学研究所による墳頂部の発掘調査が実施されており、石製品や金属器、埴輪が盗掘穴から出土しています。埴輪はいずれも破片ですが、墳頂部には多彩な形象埴輪が並べられたようです。円筒埴輪も飾付のものが多く、埴輪編年II期に位置づけられます。この出土品と接合することが明らかとなっている京都国立博物館所蔵富雄丸山古墳出土資料は重要文化財に指定されています。また、天理参考館には伝富雄丸山古墳出土の三角縁神獸鏡が3面所蔵されています。

富雄丸山古墳（4世紀後半）



8. 富雄丸山古墳の赤色立体地図と墳丘復元図



9. 富雄丸山古墳の埋葬施設（粘土槨）検出状態（南から）

（奈良県立橿原考古学研究所提供）



10. 富雄丸山古墳で出土した形象埴輪（家・蓋・盾・草摺）

(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館提供)

参考資料 みるくじ きんかくぶちしんじゅうきょう 弥勒寺所蔵三角縁神獣鏡

弥勒寺は、奈良市中町に所在します。「弥勒寺古鏡記」によると、江戸時代後期にはすでに弥勒寺にこの鏡が所蔵されていたことがわかります。弥勒寺付近に所在する前期古墳は富雄丸山古墳しか知られていませんが、大字中宇菅谷で車輪石が採集されており、付近に未知なる前期古墳があるのかもしれませんが。

このことも含めて、弥勒寺所蔵鏡の出土地を明らかにすることは困難ですが、富雄地域の古墳時代史を考える上で貴重な資料です。その重要性から、2009年3月に奈良市指定文化財に登録されました。



11. 弥勒寺所蔵三角縁神獣鏡

平城京域の前期古墳

これまで、奈良市街地周辺では佐紀古墳群以外の前期古墳はほとんど知られていませんでしたが、近年の調査で平城京域でも前期古墳がいくつかみつかっています。今後は、これらの地下に眠る古墳を含めて佐紀古墳群とその時代を考える必要があります。

HJ 第 607 次調査出土の円筒埴輪（4 世紀後半～5 世紀初頭）



HJ 第 607 次調査で確認した周溝状の落ち込みと周辺の古墳群



12. HJ 第 607 次調査で出土した円筒埴輪

金光古墳（4 世紀後半）



13. 金光古墳の葺石検出状態（南西から）



14. 金光古墳で出土した円筒埴輪

石ガマチ 2 号墳（4 世紀後半）



15. 石ガマチ 2 号墳の周溝検出状態（垂直写真）



16. 石ガマチ 2 号墳で出土した円筒・形象埴輪（家）

若草中学校旧所蔵の埴輪

奈良市立若草中学校は、奈良市法蓮町に位置します。ここに埴輪や土器などの考古資料が所蔵されていましたが、平成25年度に奈良市へ寄贈されました。

埴輪には円筒埴輪（普通・鱗付・楕円）と形象埴輪（盾・不明）があり、円筒埴輪の特徴は底部径約27cm、底部高18～18.5cm、口縁部高約10cm、突帯間隔13～14cmです。突帯は方形刺突および凹線で設定されたものがあります。透孔は三角形や半円形で、底部にあげたものもみられます。壁面に黒斑の付くものや赤色顔料を塗布したものがあります。

これらの特徴は埴輪編年二期のもので、残存状況からみてひとつの古墳のまとまった資料である可能性が高いと考えられます。若草中学校の近くでこの埴輪の時期に近い古墳を探せば、不退寺裏山古墳やなら山古墳群などがあります。出土地は不明ですが、古い埴輪の製作技法（方形刺突など）を観察できる貴重な資料です。



17. 若草中学校旧所蔵の円筒・形象埴輪（盾・不明）

第3章

埴輪生産の定着と規格化

-埴輪編年Ⅲ期-

西群から東群へ-佐紀古墳群の拡大-

佐紀古墳群の大型古墳は概ね西から東へ築造されていきます。埴輪編年Ⅲ期の時期には、西群の五社神古墳や佐紀石塚山古墳が築造された後に、東群でコナベ古墳の築造が始まります。Ⅲ期の埴輪は依然として野焼きで黒斑がみられますが、透孔が円形に統一されB種ヨコハケ調整が一般化するなど、形の整った埴輪が増加します。

五社神古墳（4世紀末）

五社神古墳（神功皇后陵）は、全長約267mの前方後円墳で鍵穴形の周濠がめぐります。以前は、埴丘形態から佐紀古墳群のなかで最も古い古墳として位置づけられてきましたが、近年の宮内庁による調査で西側に造り出しをもつ可能性が高まり、線刻表現の蓋形埴輪や冚形土製品の出土により、埴輪編年Ⅲ期に近くなると考えられています。全体の形がわかる資料が少ないため、現状でⅡ期かⅢ期かを断定することは困難です。



18. 五社神古墳の外周で表採された円筒埴輪

コナベ古墳（5世紀初頭）

コナベ古墳は、全長約204mの前方後円墳で造り出しが取りつき盾形周濠が伴います。すぐ東側にはウワナベ古墳が位置します。コナベ古墳ではそれを囲むように多数の陪塚があります。

埴輪は、奈良市教育委員会が実施した外堤の調査や、宮内庁による埴丘の調査で確認されています。いずれも黒斑があり野焼きで作られています。透孔は円形に統一されています。また、外面調整では静止痕のあるB種ヨコハケ(Bb・Bc種)が施されたものがあります。

コナベ古墳の埴輪は規格が整いはじめるⅢ期の埴輪を代表する資料と言えます。



19. コナベ古墳の赤色立体地図

(奈良県立橿原考古学研究所提供)



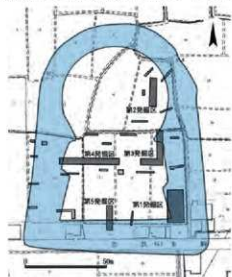
20. コナベ古墳外堤の円筒埴輪列検出状態（西および北西から）



21. コナベ古墳で出土した円筒埴輪

ほつげじかいと 法華寺垣内古墳 (5世紀初頭)

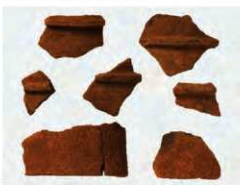
法華寺垣内古墳は、平城京造営に伴い墳丘は削られています。地下に残っていた葺石や周濠などから全長約110mの前方後円墳で、くびれ部の両側ともに造り出しがつくことがわかりました。この形態は北約500mに位置するコナベ古墳の1/2にあたるものです。コナベ古墳の埴輪に似た特徴をもちますが、突帯間隔がコナベ古墳出土埴輪に比べてやや狭く、若干時期が下る可能性があります。



22. 法華寺垣内古墳の墳丘復元図と出土した円筒・形象埴輪（蓋・家）

うぐいすづか 若草山頂に位置する鶯塚古墳 (5世紀初頭)

山焼きで有名な若草山の山頂には、5世紀初頭の前方後円墳である鶯塚古墳があります。コナベ古墳とほぼ同時期に、奈良盆地が見渡せる場所に築造されたこの古墳の被葬者は、佐紀古墳群の被葬者とも関連のあったことがうかがえます。



23. 鶯塚古墳で表採された円筒埴輪

平城京造営で削られたⅢ期の埴輪をもつ古墳

ろくじょうのみや 六条野々宮古墳 (5世紀初頭)

古墳の規模や墳形等は不明ですが、据え付け穴に円筒埴輪が残存した状態でみつけられました。



24. 六条野々宮古墳で出土した円筒・形象埴輪（蓋）

さきもんがい 佐紀門外古墳 (5世紀初頭)

規模等は不明ですが、平城宮北側に推定される松林苑の整備にもなって削られた可能性が考えられます。



25. 佐紀門外古墳で出土した円筒・形象埴輪（不明）

奈良町で見つかったⅡ～Ⅲ期の埴輪

江戸時代の町並みを残す観光地として栄える「ならまち」では、古墳時代前期から後期までの埴輪や古墳がみつかっています。ここでは古墳時代前期～中期前半にあたる、Ⅱ～Ⅲ期の埴輪が出土した調査を紹介します。

H J 第 258 次調査出土合子・埴輪（4世紀後半）

HJ 第 258 次調査では、鎌倉時代の井戸から古墳時代の石製合子が出土するという、奇妙な調査成果を得ました。さらに、この調査では方形刺突を施し突帯の突出する円筒埴輪や家形埴輪も出土しました。これらの特徴はいずれも埴輪編年Ⅱ期に位置づけられるもので、付近にこの時期の古墳があった可能性が高いと考えられます。



26. HJ 第 258 次調査で出土した円筒・形象埴輪（家）と石製合子

漢国神社南東古墳・H J 第 269 次調査出土埴輪（5世紀初頭）

HJ 第 269 次調査地点は漢国神社南東古墳に近く、付近にⅢ期の埴輪をもつ古墳がいくつかあったと考えられます。



27. 漢国神社南東古墳で出土した円筒埴輪



28. HJ 第 269 次調査で出土した円筒・形象埴輪（蓋）

第4章 成熟した埴輪生産の時代

—埴輪編年Ⅳ期—

ウワナベ古墳の時代

埴輪編年Ⅳ期は、概ね5世紀中頃を中心とする時期にあたり、焼成方法が埴焼きから密窯みつがまへと変化します。Ⅳ期では一般的に、時期が下るにつれて突帯の間隔が狭くなって小型化が進み、省力化傾向が顕著になります。また、ウワナベ古墳出土埴輪にみられるような古い特徴を残した埴輪が奈良市域を中心に散在しており、地域性もあらわれてきます。

ウワナベ古墳（5世紀中頃）

ウワナベ古墳は、全長約255mの前方後円墳です。この古墳で出土する埴輪の特徴として、方形・三角形透孔を配置する鱗付円筒埴輪があげられます。このような特徴は、埴輪編年Ⅱ期に多いものですが、外面に黒斑はなく、調整にはB種ヨコハケが施されており、古い特徴を兼ね備えたⅣ期の埴輪と言えます。

白舌島古墳群でも、Ⅳ期の七観古墳で鱗付円筒埴輪が出土しており、最新技術の密窯焼成が導入されながらも、旧来のデザインを残す埴輪の製作が局地的に存続したようです。



29. ウワナベ古墳で出土した円筒埴輪



30. ウワナベ古墳近接地で出土した鱗付円筒埴輪

(奈良県立橿原考古学研究所提供)

みなみしん

南新コモ川2号墳（5世紀中頃）

南新コモ川2号墳は、V期の甲冑形埴輪が出土した南新コモ川古墳の東側に隣接する小規模な方墳と考えられます。

ここで出土した埴輪には、ウワナベ古墳出土資料と同様の特徴をもつ鯖付円筒埴輪があります。同じ特徴を共有する埴輪は、以下で紹介するヤイ2号墳のほか、河合町の川合大塚山古墳でもみつかっており、比較的広範囲に供給されていたことがわかります。

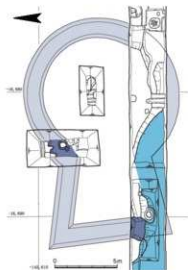


31. 南新コモ川2号墳で出土した円筒・形象埴輪（盾）

全国最小級の前方後円墳とその埴輪

HJ 第600次調査でみつかったヤイ2号墳は、全長約15mの前方後円墳で、その規模は全国最小級です。ここで出土した埴輪も、ウワナベ古墳出土埴輪と同様の特徴をもつものがあります。ウワナベ古墳の南東約1kmに位置することからも、なんらかの関連があったことが想定できます。

ヤイ2号墳（5世紀中頃）



32. ヤイ2号墳の復元図と出土した円筒・形象埴輪（蓋・鳥・穀）

おびとけ
帯解地域の首長墓 **ベンシヨ塚古墳**

JR帯解駅の東方に位置するベンシヨ塚古墳は、全長約70mの前方後円墳です。発掘調査で、後円部に3基の粘土槨がみつき、甲冑・馬具・鉄器・玉類などの豊富な副葬品が出土しました。墳頂部の^{あか}乱土からは円筒・形象埴輪が出土し、埋葬施設を囲むように立て並べられていたと考えられます。墳丘裾でも円筒埴輪列が検出されており、豊富な副葬品だけでなく埴輪も注目すべき古墳です。

ベンシヨ塚古墳（5世紀前半～中頃）



33. ベンシヨ塚古墳 航空写真（東から）



34. ベンシヨ塚古墳で出土した円筒・形象埴輪（家・蓋・盾・叢・鳥）



35. ベンシヨ塚古墳で出土した副葬品

大安寺に取り込まれた^{すぎやま}杉山古墳

奈良時代最大の官寺である大安寺旧境内には、全長約154mの前方後円墳である杉山古墳があります。^{『大いあんじからんもくすなるびさしざいりょう』}「大安寺伽藍縁起并流記資財帳」には「一坊池并岳」とあり、杉山古墳が境内に取り込まれていたことがわかります。前方部には瓦窯が作られており、大安寺に取り込まれたことで墳丘が残されたと考えられます。

杉山古墳（5世紀中頃）

円筒埴輪は、4条突帯のものを中心とし凹線による突帯間隔設定技法が用いられています。外面は主にBb～Bd種ヨコハケ調整されたものがあります。このほか、少数ながら幅約4.5cmの太い突帯を貼り付けたものや罎付円筒埴輪もあります。形象埴輪は多彩で多くが破片ですが、完形の家形埴輪は古墳時代の建物を知る上でも重要な資料であり、奈良市指定文化財に登録されています。



36. 杉山古墳で出土した円筒・形象埴輪（家・蓋・盾・鞆・人物・甲冑）

平城京内で出土したIV期の埴輪

DA第107次調査出土埴輪（5世紀中頃）

調査地は杉山・墓山古墳の中間にあたる地点で、大安寺造営によりいずれかの古墳が削られた際に整地土とともに運ばれ混入したと考えられます。手にバチのようなものをもっており、楽器をひく人物形埴輪と推定されます。



37. DA第107次調査で出土した形象埴輪（人物）

HJ第75・248・251次調査出土埴輪（5世紀中頃）

いずれも密窯焼成でヨコハケ調整を行ったIV期の埴輪です。HJ第248次調査出土埴輪のなかには、突帯が剥離した部分に二重凹線が施されています。

これらの調査で古墳の遺構はみつかっていませんが、付近に削られた古墳があったことを想定できる資料です。



38. HJ第75次調査で出土した円筒埴輪



39. HJ第248次調査で出土した円筒・形象埴輪（鳥・不明）



40. HJ第251次調査で出土した円筒・形象埴輪（不明）

第5章

埴輪生産組織の再編成と土師氏の世界

—埴輪編年Ⅴ期—

埴輪生産組織が再編成される時代

埴輪の誕生以降、円筒埴輪は突帯間隔を設定することで、規格性を維持しながら製作されてきました。

しかし、埴輪編年Ⅴ期になると、守られてきた規格性を放棄し、断続ナデ技法で突帯を貼り付ける製作集団が現れます。2次ヨコハケ調整を省略し、ひずんだ底部を調整するようになります。一方、Ⅳ期以来の伝統的な埴輪作りを行う集団も残っていることから、この時期に新たな埴輪作りを志向した集団が編成されたと考えられます。

埴輪は著しく省力化した作りになりますが、これまで以上に生産性が向上して形象埴輪も多く作られるようになります。規格性が失われていく中で、各地での地域性も著しくみられるようになり、埴輪作りの最終段階にして多様性が開花する時代です。

奈良市でみつかった菅原東遺跡埴輪窯跡群では、埴輪編年Ⅴ期の埴輪が生産されました。史料にみる菅原土師氏の活動拠点はまさにこの遺跡であり、現在の奈良市が土師氏の故郷であることを物語ります。

すがはらがしいせきはにわかまあとぐん
菅原東遺跡埴輪窯跡群（5世紀後半～6世紀）



41. 菅原東遺跡埴輪窯跡群の全景（北から）

菅原東遺跡埴輪窯跡群における埴輪生産

菅原東遺跡は、古墳時代前期の宝来山古墳造営に連動して集落が営まれはじめます。しかし、中期には一度廃絶し、後期になって再び集落が営まれます。この一角に埴輪窯が構築され、現在までに確認できた窯は6基あります。ここで出土した埴輪の大半は、古墳へ運ばれなかった失敗作です。そのため、接合して完形になる資料はほとんどありません。

菅原東遺跡の埴輪窯で作られた埴輪と同じ特徴をもつ埴輪が、大和郡山市水晶塚古墳や天理市星塚2号墳で確認されており、埴輪窯出土の円筒埴輪と同じハケメ工具を用いたものも見つかっています。

『続日本紀』には、野見宿禰を始祖とする菅原に住む土師氏に菅原の姓を天皇が与えたことが記されています。埴輪窯の発見は、史料にみられる土師氏伝承と合致する調査成果であり、奈良市が土師氏の故郷である由縁はここにあります。



42. 菅原東遺跡埴輪窯跡群出土円筒・形象埴輪（家・盾・鞞・大刀・蓋・石見型・人物・盾持人・馬）

後期に展開する石見型埴輪 いわみがた

形象埴輪は前期から種類を増して、後期にはその生産が頂点に達します。なかでも、「石見型埴輪」は、後期になって盛行する特殊な形象埴輪です。奈良県三宅町の石見遺跡でその存在が知られたことから石見型埴輪と呼ばれていますが、なにをかたどったものなのかは未だ定説がありません。

分布は近畿地方を中心に西日本へ展開するほか、関東でも群馬・栃木県でやや変容した石見型埴輪が作られています。大型古墳からの出土は少なく、地域によって形象部表面の装飾方法が異なることから、古墳時代後期における階層性や地域性を考える上で重要な形象埴輪です。

菅原東遺跡（H J 第 257-2 次）出土石見型埴輪（5世紀後半）



43. 菅原東遺跡（H J 第 257-2 次）で出土した形象埴輪（石見型）

古い特徴を残すV期の埴輪

埴輪編年V期には、生産組織が再編成され、突帯間隔設定技法を放棄する集団が現れます。一方、IV期以来のヨコハケ調整や突帯間隔を揃えることを意識する集団も残っています。ここで紹介するのは、そうした古い特徴を残すV期の埴輪です。

からいしりょう

杏尻広1号墳（5世紀後半）

杏尻広1号墳は、一辺約13mの方墳に長さ約3m、幅約8mの突出部がとりつきます。円筒埴輪は2次調整が省略されタテハケ調整のみですが、突帯は比較的水平的かつ突出した形状をしています。蓋形埴輪は、従来製作手順で作られておらず、作り方を知らない工人が模倣して製作したと考えられます。



45. 南新コモ川古墳で出土した形象埴輪（甲冑）



44. 杏尻広1号墳で出土した円筒・形象埴輪（蓋）

南新コモ川古墳（5世紀後半）

南新コモ川古墳は、約9×5.2mの長方形墳です。平城京造営によって墳丘は削られています。周溝から形がよく残っている甲冑形埴輪が出土しました。

この甲冑形埴輪は、従来通り粘土紐を積み上げて作られています。しかし、前期～中期の甲冑形埴輪にみられる実物の甲冑を模した線刻がほとんど省略されています。このことから、南新コモ川古墳出土甲冑形埴輪は、最も省略が進んだものと考えられます。

後期の形象埴輪では甲冑形埴輪が作られなくなっていくことから、その最終形態といえるでしょう。

石ガマチ古墳（5世紀後半）

石ガマチ古墳は、杉山古墳の北西約500mに位置する一辺約12mの方墳です。出土した円筒埴輪は外面が摩滅し調整が不明瞭ですが、突帯は台形状を維持し断続ナア技法や底部調整は施されていないようです。

杏尻広1号墳や南新コモ川古墳出土埴輪とともに、埴輪編年IV～V期の過渡期的様相を示す資料と思われる。



46. 石ガマチ古墳で出土した円筒埴輪

多様化する土師氏の埴輪生産

埴輪編年V期にみられる製作工程の省力化は、量産するためだと考えられます。これにより、多様な形象埴輪が作られるようになり、小規模な古墳にも多くの埴輪が立て並べられました。

ヤイ古墳（6世紀前半～中頃）

ヤイ古墳は全長約24mの前方後円墳です。小規模ながら、多くの形象埴輪が出土しており、本来は多彩な埴輪を立て並べていたことを示します。



47. ヤイ古墳で出土した円筒・形象埴輪（蓋・家・盾・人物・馬・鳥・不明）

脇ど 脇戸古墳 (6世紀前半～中頃)

直径約30mの円墳で、元興寺旧境内の調査で偶然みつかった古墳です。

円筒埴輪は比較的レベルに突帯が貼り付けられています。突帯の間隔を割り付ける技法は用いられていません。一部に断続ナデ技法の痕跡を観察できますが、それがみえないものが主体です。底部は、板で叩くように調整されています。

ともに出土した盾形埴輪は、石見型埴輪のように表面に小さな穴があけられているのが特徴です。線刻も簡略化されています。

このように特徴的な盾形埴輪に加えて、円筒埴輪も厚みがあり他とはやや雰囲気の異なる印象を受けます。



48. 脇戸古墳で出土した円筒・形象埴輪 (盾)

いさかひ 率川古墳 (6世紀前半～中頃)

率川古墳は、小規模調査で見つかった古墳で、規模等は不明です。しかし、断続ナデ技法により突帯が貼り付けられた円筒埴輪のほか、石見型埴輪などの形象埴輪が数種類出土しています。

石見型埴輪は、中央に粘土板を貼り付けており、菅原東遺跡 (HJ 第257-2次) 出土資料とは貼り付け位置が異なります。このような中央だけに粘土板を貼り付ける石見型埴輪は、大和北部～山城南部・北河内地域にほぼ限られる特徴です。



49. 率川古墳で出土した円筒・形象埴輪 (石見型・蓋・動物)

絵画埴輪が出土した中之庄上ノ山古墳

ベンシヨ塚古墳のさらに東方の丘陵上に位置する中之庄上ノ山古墳は、『大和國古墳墓取調書』に「上ノ山」として登場する古墳で、平成26年の発掘調査によって後円部径約27m、前方部長7m以上で全長34m以上の前方後円墳であることがわかりました。

多彩な埴輪とともに土器類も出土し、この地域の首長墓であったと考えられます。なかでも表面に弓矢を射る人物と動物が描かれた埴輪は類例のないもので、すぐ西側でも明治時代に絵画埴輪が表採されたことが知られています。

このような絵画埴輪は類例が少なく、この地域に集中することから、付近で地域的な埴輪生産のあった可能性がうかがえます。

なかのしょうえのやま
中之庄上ノ山古墳（6世紀前半～中頃）



絵画埴輪



50. 中之庄上ノ山古墳で出土した円筒・形象埴輪（蓋・穀・石見型・人物・馬・鳥・絵画）と土器

とうかん 陶棺を納めた墳墓-土師氏の黄泉-

奈良市北西部では、埴輪と作り方が共通する陶棺を納めた墳墓や横穴墓が多くあります。これらは、埴輪作りを主導した土師氏の墓であると考えられています。実際に、菅原東遺跡埴輪窯跡群でも陶棺片が出土しており、埴輪とともに陶棺を焼いていたことがわかっています。

横穴墓のなかには、陶棺を安置する際に埴輪を敷いたものがあり、狐塚2号墓（6世紀後半）では田期の埴輪（5世紀初頭）を敷いてそれを埋めた土の上に陶棺を安置しています。埴輪は、わざわざ近くの古墳から抜き取ってきたものと考えられます。同様の事例は赤田7号墓でもみられ、土師氏の祖先を意識した行為なのかもしれません。

あきがしら 秋頭2号墳（6世紀前半）

秋頭古墳群は、6世紀に盛行する古墳群です。秋篠地域に位置し、秋頭5号墳から陶棺が出土しているほか、西側の斜面地では明治時代に御陵前陶棺が横穴墓から出土した記録も残っています。

秋頭2号墳の埋葬施設は不明ですが、全長約30mの前方後円墳です。後円部西側でV期の円筒埴輪とともに、入母屋造りの家形埴輪（下屋根部分）が表採されています。

51. 秋頭2号墳で表採した形象埴輪（家）



きつおづか 狐塚2号墓（6世紀後半）



52. 陶棺の出土状態（東から）



53. 狐塚2号墓で出土した円筒埴輪

あこだ 赤田7号墓（7世紀前半）



54. 埴輪を敷いて陶棺を安置した状態（南西から）



55. 赤田7号墓で出土した円筒埴輪

展示に登場した市内遺跡と資料の所在地



【奈良市の埴輪出現以前】

1. 杉ヶ町遺跡

【埴輪編年Ⅱ期】

2. 菅原東遺跡（埴輪窯はⅤ期） 3. 平松北内古墳 4.HJ607次 5. 金光古墳 6. 石ガマチ2号墳 7. 富雄丸山古墳 8. 弥勒寺
9.HJ258次 10. 若草中学校

【埴輪編年Ⅲ期】

11. 五社神古墳 12. コナベ古墳 13. 法華寺堀内古墳 14. 鷺塚古墳 15. 漢国神社南東古墳 16. 六条野々宮古墳 17.HJ269次
18. 佐紀門外古墳

【埴輪編年Ⅳ期】

19. ウワナベ古墳 20. 南新コモ川2号墳 21. ヤイ2号墳 22. ベンショ塚古墳 23. 杉山古墳 24.DA107次 25.HJ75次
26.HJ248次 27.HJ251次

【埴輪編年Ⅴ期】

28. 杏尻広1号墳 29. 南新コモ川古墳 30. 石ガマチ古墳 31.HJ257-2次 32. ヤイ古墳 33. 脇戸古墳 34. 率川古墳
35. 中之庄上ノ山古墳 36. 秋蹟2号墳 37. 狐塚2号墓 38. 赤田7号墓

図版目録

| 写真番号 | 遺跡名等 | 資料名 | 調査回数 | 年代 | 所在地 | 所属機関 |
|-------|-------------|--------------|---------------------|-------------|----------------|---------------------------------------|
| 1 | 橋築弥生墳丘墓 | 特殊器台 | - | 2世紀中頃 | 岡山県倉敷市 | 岡山大学考古学研究室 (写真) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター |
| 2 | 東殿塚古墳 | 円筒埴輪 | - | 4世紀前半 | 奈良県天理市 | 天理市教育委員会 |
| 3 | 杉ヶ町遺跡 | 円筒形器台 | 1988年度立会 | 4世紀中頃～後半 | 奈良市杉ヶ町 | 奈良市教育委員会 |
| 4 | 佐紀古墳群 | 航空写真 | - | 4～5世紀 | 奈良市佐紀町ほか | 奈良市教育委員会 |
| 5 | 宝来山古墳と菅原東遺跡 | 航空写真 | - | 4世紀後半 | 奈良市横領町ほか | 奈良市教育委員会 |
| 6 | 菅原東遺跡 | 円筒・形象埴輪 | HJ229・443-7 | 4世紀後半 | 奈良市横領町 | 奈良市教育委員会 |
| 7 | 平松北内古墳 | 円筒・形象埴輪 | 平成6年度試掘 | 4世紀後半 | 奈良市平松一丁目 | 奈良市教育委員会 |
| 8 | | 赤色立体地図 | 奈良市2018 | - | - | 奈良市教育委員会 |
| 9 | 富雄丸山古墳 | 埋葬施設検出状態 | - | 4世紀後半 | 奈良市丸山一丁目 | 奈良県立橿原考古学研究所 奈良県立橿原考古学研究所 形質博物館 |
| 10 | | 形象埴輪 | - | - | - | 奈良市教育委員会 |
| 11 | 弥勒寺 | 三角縁神獣鏡 | - | - | 奈良市中町 | 弥勒寺(奈良市埋蔵文化財調査センター保管) |
| 12 | HJ第607次調査 | 円筒埴輪 | HJ607 | 4世紀後半～5世紀初頭 | 奈良市尼辻町 | 奈良市教育委員会 |
| 13 | 金光古墳 | 葺石検出状態 | - | - | - | - |
| 14 | | 円筒埴輪 | HJ644 | 4世紀後半 | 奈良市大森西町 | 奈良市教育委員会 |
| 15 | | 周溝検出状態 | - | - | - | - |
| 16 | 石ガマチ2号墳 | 円筒・形象埴輪 | HJ713 | 4世紀後半 | 奈良市大安寺七丁目 | 奈良市教育委員会 |
| 17 | 若草中学校旧所蔵埴輪 | 円筒・形象埴輪 | - | 4世紀後半 | - | 奈良市教育委員会 |
| 18 | 五社神古墳 | 円筒埴輪 | 表採 | 4世紀末 | 奈良市山陵町 | 奈良市教育委員会 |
| 19 | | 赤色立体地図 | - | - | - | - |
| 20・21 | コナベ古墳 | 円筒埴輪 | KNO1 | 5世紀初頭 | 奈良市法華寺町 | 奈良県立橿原考古学研究所 奈良市教育委員会 |
| 22 | 法華寺埴内古墳 | 円筒・形象埴輪 | HJ520 | 5世紀初頭 | 奈良市法華寺町 | 奈良市教育委員会 |
| 23 | 鷺塚古墳 | 円筒埴輪 | 表採 | 5世紀初頭 | 奈良市羅司町 | 奈良市教育委員会 |
| 24 | 六条野々宮古墳 | 円筒・形象埴輪 | HJ489 | 5世紀初頭 | 奈良市六条一丁目 | 奈良市教育委員会 |
| 25 | 佐紀門外古墳 | 円筒・形象埴輪 | HJ26 | 5世紀初頭 | 奈良市佐紀町 | 奈良市教育委員会 |
| 26 | HJ第258次調査 | 円筒・形象埴輪、石製合子 | HJ258 | 4世紀後半 | 奈良市井上町 | 奈良市教育委員会 |
| 27 | 酒国神社南東古墳 | 円筒埴輪 | HJ449 | 5世紀初頭 | 奈良市林小路町 | 奈良市教育委員会 |
| 28 | HJ第269次調査 | 円筒・形象埴輪 | HJ269 | 5世紀初頭 | 奈良市上三条町 | 奈良市教育委員会 |
| 29 | ウナベ古墳 | 円筒埴輪 | UN1 | 5世紀中頃 | 奈良市法華寺町 | 奈良市教育委員会 |
| 30 | ウナベ古墳近接地 | 円筒埴輪 | - | 5世紀中頃 | 奈良市法華寺町 | 奈良県立橿原考古学研究所 |
| 31 | 南新コモ川2号墳 | 円筒・形象埴輪 | HJ550 | 5世紀中頃 | 奈良市四条大路一丁目 | 奈良市教育委員会 |
| 32 | ヤイ2号墳 | 円筒・形象埴輪 | HJ600 | 5世紀中頃 | 奈良市法蓮町 | 奈良市教育委員会 |
| 33 | | 航空写真 | - | - | - | - |
| 34 | ベンショ塚古墳 | 円筒・形象埴輪 | BSZ1 | 5世紀前半～中頃 | 奈良市山町 | 奈良市教育委員会 |
| 35 | | 副葬品 | - | - | - | - |
| 36 | 杉山古墳 | 円筒・形象埴輪 | DA44・45・47・53・58・65 | 5世紀中頃 | 奈良市大安寺四丁目 | 奈良市教育委員会 |
| 37 | DA第107次調査 | 形象埴輪 | DA107 | 5世紀中頃 | 奈良市大安寺五丁目 | 奈良市教育委員会 |
| 38 | HJ第75次調査 | 円筒埴輪 | HJ75 | 5世紀中頃 | 奈良市小川町 | 奈良市教育委員会 |
| 39 | HJ第248次調査 | 円筒・形象埴輪 | HJ248 | 5世紀中頃 | 奈良市法蓮町 | 奈良市教育委員会 |
| 40 | HJ第251次調査 | 円筒・形象埴輪 | HJ251 | 5世紀中頃 | 奈良市下三条町 | 奈良市教育委員会 |
| 41 | 菅原東遺跡埴輪窯跡群 | 埴輪窯検出状態 | - | 5世紀後半～6世紀 | 奈良市横領町ほか | 奈良市教育委員会 |
| 42 | | 円筒・形象埴輪 | HJ200 | 5世紀後半～6世紀 | 奈良市横領町ほか | 奈良市教育委員会 |
| 43 | 菅原東遺跡 | 形象埴輪 | HJ257-2 | 5世紀後半～6世紀 | 奈良市菅原東町 | 奈良市教育委員会 |
| 44 | 香尻広1号墳 | 円筒・形象埴輪 | HJ641 | 5世紀後半 | 奈良市香町 | 奈良市教育委員会 |
| 45 | 南新コモ川古墳 | 形象埴輪 | HJ346 | 5世紀後半 | 奈良市四条大路一丁目 | 奈良市教育委員会 |
| 46 | 石ガマチ古墳 | 円筒埴輪 | HJ630 | 5世紀後半 | 奈良市大森西町 | 奈良市教育委員会 |
| 47 | ヤイ古墳 | 円筒・形象埴輪 | HJ437 | 6世紀前半～中頃 | 奈良市法蓮町 | 奈良市教育委員会 |
| 48 | 脇戸古墳 | 円筒・形象埴輪 | GG39・51 | 6世紀前半～中頃 | 奈良市脇戸町 | 奈良市教育委員会 |
| 49 | 率川古墳 | 円筒・形象埴輪 | 1986年度立会 | 6世紀前半～中頃 | 奈良市本子守町 | 奈良市教育委員会 |
| 50 | 中之庄上ノ山古墳 | 円筒・形象埴輪、土器 | UK02 | 6世紀前半～中頃 | 奈良市田中町・天理市中之庄町 | 奈良市教育委員会 |
| 51 | 秋頭2号墳 | 形象埴輪 | 表採 | 6世紀前半 | 奈良市山陵町 | 奈良市教育委員会 |
| 52 | 孤塚2号墓 | 円筒埴輪 | KZ01 | 6世紀後半 | 奈良市山陵町 | 奈良市教育委員会 |
| 53 | | 陶棺出土状態 | - | - | - | - |
| 54 | | 陶棺出土状態 | - | - | - | - |
| 55 | 赤田7号墓 | 円筒埴輪 | AD02 | 7世紀前半 | 奈良市赤田町 | 奈良市教育委員会 |



平成 30 年度夏季特別展

奈良市の埴輪

- 土師氏の故郷でのハニワ生産 -

展示パンフレット

発行日：平成 30 年 8 月 1 日

編集：奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター

発行：奈良市教育委員会

印刷：藤平井眞美館